

茨木市が求める職員

いま、市役所に求められているもの



今の時代は、地域の多種多様な価値観や個性に根ざした、住民本位の地方分権型社会へと転換がはかられており、地方自治体としては自らの判断と責任により、地域の実情に沿った行政を開していくことができるようになりました。

そして、近年、少子高齢化や地方分権の本格的な到来などの社会情勢の変化に伴い、市民のニーズは高度化・複雑化・多様化しています。

- 防災体制の確立
- 児童虐待・DV被害者へのケア、再発の防止
- 生活困窮者に対するセーフティネットの充実
- 高齢者・障害者が不自由なく暮らせる社会づくり
- 保育所・学童保育室の待機児童解消
- 教育の質向上、子どもも大人も学べる環境の整備
- 地域経済・地域活動の活性化
- DXによる業務改善、市民の利便性向上

など

この他にも時代の変化とともに様々なことが新たに求められ「言わされたことをやれば良い」時代ではなくなってきています。

自ら考え推し進めていかなければならない事業や、制度改正への対応、大阪府からの権限移譲による事務等「やらなければならないこと、取り組まなければならないこと」がたくさんあります。

少子高齢化・人口減少、そして地方分権が進み、今は状況がめまぐるしく変動する、先行きの読めない時代です。そのような中で、限られた財源で最大の効果を上げ、多様化する市民のニーズへの対応が求められています。

いま、職員に求められているもの



市役所の求められる役割を果たしていく中で、職員の担う役割は決して小さくありません。

茨木市の目指すプロセス重視・ひと重視のまちづくりにおいては、多様な価値観のもと、多様な主体が活躍できるまちづくりに向けて、常に市民の声に耳を傾け、チャレンジ力やマネジメント力を発揮し、誰もが安全安心、豊かさ幸せを実感できる「共創」のまちづくりを実現できる職員が求められています。

そこで、茨木市ではこれらを実現していくことができる能力と意欲を持つ「めざすべき職員像」を次のように定めています。

茨木市職員がめざすべき職員像



市民目線

常に市民の目線に立ち、

市民から信頼される職員

職員は、「全体の奉仕者」として高い倫理観と使命感を持ち、市民の声に耳を傾け、誠実かつ公正に業務を行い、市民にとって、丁寧でわかりやすい行政運営に努めることが重要です。活気あふれるまちづくりを市民といっしょに担い、市民から信頼される職員をめざします。

チャレンジ力

新たな課題への挑戦を恐れず、

自分を変革できる自律した職員

職員には、現状に甘んじることなく、常に問題意識を持ち、課題の解決に向けて積極的に努力する姿勢が求められます。本市の魅力をさらに高めるため、新たな課題に果敢に挑戦して、仕事や自分を変革することで、より一層成長できる自律した職員をめざします。

マネジメント力

政策形成能力や経営感覚などを備え、

目標を達成できる職員

職員は、行政運営のプロとして、経営感覚やコスト意識を身につけ、先を見据えた持続可能なまちづくりを市民とともにめざし、支えていく必要があります。積極的に知識や技術の習得に励み、自ら目標を立て達成できる高い政策形成能力・法務能力等を身につけ、将来にわたって、いつまでも住み続けられるまちを創造できる職員をめざします。

茨木市が求める職員



茨木市では、めざすべき職員像に向けて、主体的な能力開発に取り組むとともに、上司・同僚等周囲の職員と協力して、良好なコミュニケーションを通じてチームワークを育み、ともに成長し、支えあうことができる職員を求めていきます。